

二〇二二年度

第二回 入学試験問題

国語（五十分）（全十ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていないか、印刷がはつきりしないところがあったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点・記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。



東京純心女子中学校

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「友人としての本」というふうにして本を考えると、まず考えることは、友人とはどういうものかということです。

(中略)

友人というのはその場かぎりではありません。「ずっとつづく」関係です。親しい、よく知っているという以上に、友人というあり方の根をなすのは、「ずっとつづく」ということ。「ずっとつづく」ものが友人であり、友人たりうるということであり、「ずっとつづく」というのは、日常的にずっと連続する **a** でなく、日常的にたとえ連続してなく **b**、続いているという感覚がずっとつづいている、ということです。

友人と言うと、人間のように **c** 聞こえないかもしれませんが、人間だけでなく、たとえば山もそうです。

そこに山がある。その山を見て、そこにひとは、さまざまなものを見る。緑を見る。晴れたり、曇ったり、天候を見る。過ぎてゆく季節、やってくる季節を見る。山を見ているうちに、自分の思いを見ていることに気づくことも、きつとあります。状況、年齢、環境、その日の気分の問題 **d** 含めて、それぞれに、さまざまに、そこにある山を見る。

そうやって山を見ることができるとするには、大事なのはただ一つ。そこにその山がずっとある、ということ。ずっとあるのが、山なので

す。

石川啄木が「①ふるさとの山に向ひて言ふことなしふるさとの山はありがたきかな」と歌った「山」は、山すなわちふるさとであり、ふるさとすなわち友人です。そこにずっとある山が、「石をもて追はるることくふるさとを出でし」啄木には、終生の友人でした。

そこに山がある。そこにずっとつづいてある。そのように、ずっとつづいてあるものこそ、人間の友人同様、自分にとつての友人であるということ。自分にとつての友人といえる、ある確かさをつくりだすのは、この、ずっとつづいてそこにあることの意味です。

(中略)

「ずっとある」ということは、どういうことでしょうか。ずっとつづくというのは、毎日毎日つづいてゆく、というだけとは違います。毎日毎日つづいているものを、もう一つ別の側から見させてくれるのが、自分にとつての、ずっとつづいているものであり、自分のうちにずっとつづくものをもっているかどうかで、ひとの生き方もまた、やっぱり違ってくる。きます。

目の前に毎日の生活がある。その毎日の生活のもう一つそちら側にとつづくもの、自分の心のなかにずっとつづいているものとして、友人というものが存在する、ということ。です。

友人というのは、わたしたちをふりかえらせてくれるものです。わたしたちは、ふりかえるときにいろいろなことを思い、あるいは感じます。

友人というもののちからが、わたしたちをふりかえらせる。人生があつという間に過ぎて終わってしまった、ということにならないために、わたしたちは②そういうものを必要としています。あるいは、そういうふうにならないように、と言ったほうがいいのかもしれませんが。自分のなかで、もう一つの長くつづくものとしての何かを求める。人間というのは本来、一つのものだけではなく、もう一つのものをつねに必要としているそういう存在である、とわたしは考えています。

③本は、非常に古くから、人間のあいだに必要とされてきたメディアです。時代がすすむにつれて必要になったわけでも、活字が發明されたから必要になったわけでもありません。

今日の本のかたちとは違うかもしれませんが、自分の生活を見つめるもう一つの時間、もう一つの場所、もう一つのずつとづいてゆくものとして、人間が生きてゆくということの友人という性格をもつ言葉の私たちとして、本というものをひろく考えるなら、岩石に引つ掻かれた文字も、竹筒たけつつに書き留められた言葉も、あちこちの古墳こふんから出てくる木片もくぺんや貝片かいぺんにのこされている記号も、絵のかたちに表現されたものも、一つ一つが、そのときそこに生きていた人びとの生活のかたちや活動のありようを、もう一つの場所、もう一つの地点、もう一つの視点から見させてくれる。そこに、人間が本来、必要としてきた本のアイチアイチ、本の場所というものがあるのだと思えます。

(中略)

本という文化が長年かかって培つちかってきたものは、本に□一ものを通して、そこに□二ものを想像させるからです。今日、わたしたちの社会がぶつかっている問題は、□三ものを必要とする考え方をなくしてしまったことにBキーンキーンしている、そのためにとまどっているように思われるのです。

本というのは、とてもおもしろい性質をもっています。本は言葉で書かれています。言葉というのは、日常にあつて特殊とくしゆなものではありません。ごくごく普通ふつうに、そこにもここにもあるものにすぎません。誰も占有だれせんゆうできないもので、Cビョウトウビョウトウなもの言葉です。

(中略)

だが、どこで、何をしていても、言葉はつねにそこにあります。

④「おはよう」とか、「そのはずだよ」とか、「いやだ」とか、「雨が降っている」とか、「遠くへゆこう」というふうに、言葉は当たり前のものであるとして、そこにあります。そのように、どこにでもあるものとしての言葉をつかつてくりだされてきたのが、本です。文化とよばれるものをふりかえつて考えるなら、たいがい日常にないもので何かをつくりだすというのが、人間にとつての文化の歩みをつくってきたことに気づきます。

本の歴史は違います。言葉は、つねに日常のなかにしかなく、日常のなかにあることができなくなってしまうえば、言語は消えてなくなってしまう。言語がなくなれば、その文化は途絶とだえます。⑤□ロゼッタ石や

死海文書や敦煌の遺跡など、失われた言語の解説が遙かDコウセイのわたしたちの目の前によみがえらせたのは、もはや滅んだ言語とともに生きていた人たちの喜びや悲しみまで含めて、その生活の文化の全体、すなわち失われた日常でした。

たった一つ遺された文字があれば、その文字に記されていない生活、その人たちの生きた文化、文明といったものまで想像することができ、それが文字です。

書かれていないものを想像するちから、表されているものではないものを考えるちからを伝えることができるという本のちからに思いをこらすことなく、本を表現の道具やメディアの媒体にすぎないとしてしまうと、長い歴史をかけて、本がわたしたちのあいだに生みだし、もたらしてきているものが何か、見えなくなってしまう。あるいは、そうした見えないものへの想像力に対して、およそ傲慢な人間になってしまいます。

(中略)

⑥今日、人間がもっているいちばんの危険は、人間が偉いのだと思いつぎすぎていることかもしれません。Eデンショウによって、文字によって、そうして本によって、わたしたちに手渡されてきた、ここにあるものものむこう側にある、もう一つの文化というものの大事さ、人が死んだあとにもこのついでゆくもう一つのもの、「ずっとある」ものに対する想像力が、今はなんだかひどく削がれているように思います。

友人としての本というふうに考えるというのは、たくさん時間があって、たくさん本を読めたらいい、というようなことではないのです。本は、人間のあり方、人生のつくり方、毎日毎日の過ごし方、そういうところに密接に、深く係わってきた。⑦そのような本と自分との係わり方を、自分の日々に、あらためて自覚してみちびくべきではないのだろうか、ということです。

(長田弘『読書からはじまる』より。なお、本文には省略等があります。)

*1 「石をもて追はるることくふるさとを出でし」……「石を投げつけて追われるかのように、ふるさとを出てきた」という意味。さまざまナラブルを抱えた啄木は、ふるさとを離れなければならなかった。

*2 媒体……情報などを伝える手段となるもの。

問一 a b c d に入る言葉として適当なものを、

次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だけ イ まで ウ しか エ とも オ かも

問二 — 線①「ふるさとの山に向ひて言ふことなしふるさとの山はありがたきかな」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 啄木にとって「ふるさとの山」はどのようなものでしたか。本文中から五字で抜き出しなさい。

(2) 「ふるさとの山はありがたきかな」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って、解答欄に合うように五十字以内で説明しなさい。

【五十字以内】から。

問三 — 線②「そういうもの」とありますが、それは何ですか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

問四 — 線③「本はくメディアです」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「メディア」の意味として適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 間をふさぐもの イ 間をとりもつもの
ウ 間を満たすもの エ 間を横切るもの

(2) 「非常に古くから、人間のあいだに必要とされてきたメディア」の具体例を本文中から探し、はじめと終わりの五字を抜き出しなさい。

問五 一 二 三 に入る言葉の組み合わせとして適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一書かれています 二書かれています 三書かれています
イ 一書かれています 二書かれています 三書かれています
ウ 一書かれています 二書かれています 三書かれています
エ 一書かれています 二書かれています 三書かれています
オ 一書かれています 二書かれています 三書かれています

問六 — 線④『おはよう』とかく『遠くへゆこう』——線⑤「ロゼッタ石や死海文書や敦煌の遺跡」とありますが、これはどのようなことを示すための具体例ですか。本文中の言葉を使って、解答欄に合うように、それぞれ指定の字数で説明しなさい。

④ 【二十五字以内】というのと。
⑤ 【四十字以内】ということ。

問七 ——線⑥「今日、人間がくかもしれませぬ」について、次の各問いに答えなさい。

(1)「人間が偉いのだと思います」とありますが、筆者はどのような人のことをこのように言うのですか。次の文に入る具体的な言葉を、本文中から四十五字以内で探し、解答欄に合うように、はじめと終わりの五字を抜き出さない。

【四十五字以内】人。

(2) 筆者がこのように感じるのはなぜですか。本文中の言葉を使って四十文字以内で説明しなさい。

問八 ——線⑦「そのような本とくという事です」とありますが、次の中学生A・B・C・D・Eの会話の中から筆者の主張に合致するものを二つ選び、記号で答えなさい。

中学生A 本って、古くから人間の間で必要とされてきたメディアなんだね。そこに書かれていることをしっかりと理解していけば、きっとよりよい文化を築いてゆけるんじゃないかな。

中学生B どこにでもある言葉をつかってつくり出された本だからこそ、言葉が消えてしまったらもう取り返しがつかないよ。わたしたちに手渡されてきた文化を、もつともつと大切にしくちやね。

中学生C 今、社会がぶつかっている問題は、書かれているものがすべてだという考え方から来てるのかも知れないね。表されていないものを考える力を本はもたらしてくれることに、もつと注目しなくちゃ。

中学生D 本のちからってすごいんだなあ。今日、わたしたちの社会がぶつかっている問題だって、たくさん時間をつくって、たくさんの本を読んだら、きっと解決することができるはずだよ。

中学生E 長い歴史をかけて本がもたらしてくれたものを見直さなくちゃいけないね。本はあわただしく生きるわたしたちに、もう一つ別の世界があるってことに気づかせてくれるはずだから。

問九 ——線A「イチ」・B「キイン」・C「ビョウドウ」・D「コウセイ」・E「デンショウ」のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「本物のスポーツマンは日本にいるんでしょうか？」

スポーツ大会でよく見かける「選手宣誓」を聞きながら、こんな疑問を抱くことがあります。

「我々は、スポーツマンシップに則って、正々堂々と戦うことを誓います！」

皆さんはこんな選手宣誓を聞いたことがあるはずですが、あらためて質問します。「スポーツマンシップに則る」とは、どういう意味なのでしょう
①ドウキツとしませんか？

即答できる人は、ほとんどいないでしょう。考えてみてください。
②これは知らなくていいことなのでしょうか？

スポーツをするうえで必要な「基本中の基本」ですから、知らないでいいはずがありません。それに、「則った」と判断する場合の基準、あるいは逆に「則らない」と判定する場合の基準が不明では、「則ったかどうか」も当然不明ですから、宣誓自体には全く意味がなくなることに
なります。そんな宣誓をこれからも続けるのでしょうか？

(中略)

スポーツマンシップとは何のことか、それを理解するためには、第一に「スポーツとは何か」を理解しておかなければなりません。「そんなこと知ってる」って？ 本当ですか？ では、問題。「あなたの好きな

スポーツの絵を描いてください」。持ち時間は一分です。

どんな絵を描きましたか？ おそらく、プレーしているプレイヤーや、競技に関係する道具(ボールやスパイクやゴールなど)を描いたのでは
ありませんか？ それらは、「プレイヤーの絵」であり、「道具の絵」ですが、「スポーツの絵」ではありません。正解は「スポーツは絵に描けない」です。もちろん「写真にも撮れない」です。③なぜならスポーツとは「ルール」のことなのでから。

よく分からない？ それは困りましたね。では、まず「ルール」について考えましょう。

「ルール」はなぜあるのでしょうか？

スポーツを理解するために最初に確認しておきますが、「スポーツは人間が楽しむためのもの」です。これが出発点です。決して「世の中に無ければならないモノ」でもなければ、生きるためにどうしても「必要なモノ」でもありませんが、楽しむためのモノであり、その「スポーツで楽しむ」ために「ルール」があるのです。

そして、ルールのもとで勝敗を競いますが、このことが楽しくないのであれば、スポーツをする価値はありません。他のことをやった方がずっとマシです。なぜなら、スポーツは「遊ぶ/プレー」(＝遊び)だからです。遊びである以上、好きにならなくてはいけないモノではありません。好きでないなら、しなければならないのです。決して無理をする必要は

ありません。

スポーツへの参加は強制されるのではなく、自由意思によるものでなければ、「遊び(=Play)」になりません。皆さんは親から「パソコンでゲームをしないさい」と言われたことは無いでしょう。それはゲームだからです。ゲームは「遊び」だから、強制されたら「遊び」にならないのです。

「ルール」とは楽しむための具体的な約束事、**一**、「プレー(遊ぶ)」するために存在するのです。「ルール」というのは「いい」「悪い」を判断するものではありません。「楽しいか」「楽しくないか」が第一の判断基準です(ここが「法律とルールの違うところ」です)。

二、あることが「楽しいか」どうかは、あくまでその人の主観です。**三**、「つまらない」と感じる人がいるのは、当然です。「つまらない」と感じる人は、「おもしろい」と思える様にルール改正をするか、**四**他の「おもしろい」と感じる競技、またはスポーツ以外のことをすればいいのです。スポーツは、「そのルールでおもしろい」と感じる人が集まってプレーするものなのです。「スポーツはするけどルール違反もする」というのは全く無意味なことであることが分かりましたね。

ゲームを楽しむためにある**④「ルール」**が果たす機能は、三つに分けることが可能です。

一つは「空間・時間・人数・形式」などの物理的な条件に関する「公平さ」と「共通化」です。全員がスポーツについて共通の理解をしておかなければ、一緒に楽しく遊べませんから。

第二に「暴力を抑制すること」です。暴力的では楽しく遊べませんから。

以上の二つに収まらない項目を集めて、「その他」という三番目のグループを作ると、このグループが妙なもの集まりであることに気がきます。ここに収まっている各条項は、何のためにあるのだろう、と分析すると、何と(!)得点や勝利することを「難しくする」ためにあることが分かります。そして、どうもこの「やりにくい条件」を作り出すことがルールの重要な機能なのです。

サッカーはなぜ手が使えないのでしょうか？ ラグビーはなぜボールを前に投げてはいけないのでしょうか？ バスケは、なぜダブルドリブルを禁じているのでしょうか？ そこには、理由らしい理由などありません。これらは、単に「得点するのを面倒くさくする」以外に存在する理由はないのです。

なぜでしょうか？ 実は、答えは意外に簡単。最初に確認したように、ルールは「楽しんでプレー」するためのものだから、「面倒にすることが、楽しむために必要」だからなのです。これがスポーツの基本的な考え方です。ちよつと不思議な感じがするでしょう。

「ボールを前に投げることはOK」にしてしまうとラグビーは楽しくない、と思った人たちが集まって、それを「反則」にすると合意したので。オフサイドがなければ、サッカーの魅力は半減すると思った人たちが、同じくそれを「禁止」として合意したのです。これらのルールに記された具体的な条項には、「何がおもしろいのか」を判断したうえで、競技の参加者によって検討した結果、皆で合意したという歴史的な背景があるのです。そこを理解しておくことは、⑤スポーツを理解するうえで最も重要なポイントです。

何しろ、こういった背景はルールの中に文章として書かれていませんので、それ自体はルールではありません。しかし、プレーする人は事前理解しておく必要があります。⑥書かれていないけれど、前提になっていること、それが「原則」というものです。

例えば、商売をする人が契約をする場合、契約する当事者どうしには、そもそも「契約は守るもの」という原則が事前に了解されていなければ契約をしても意味がありません。「嘘をつくな」なんてことは法律には書いてありませんが、いけないことだということは皆が知っています。(中略) 同様に、「ルールは守る」という原則のうえに、「ルール」は成立しているのです。原則というのは、簡単に言えば、いちいち言う必要がない「当たり前前なこと」なのです。

例えば、Xとはルールに書かれていませんが、勝とうと努力しないのであれば、スポーツは無意味です。「勝とうと思わない相

手」と対戦したら、全然おもしろくないはず。」「X」のは、事前に合意された「原則」なのです。

整理すると、スポーツをプレーする人は、(ルールに書かれているように)「暴力を振るわないで、わざわざ面倒なことを守らなければならない」ことを事前に了解したうえでプレーをすることが前提になっているのです。

実際にプレーすると分かるでしょうが、この書かれていない「原則」を守るということは、簡単なようで実は難しい。相当な覚悟が必要。恐らく、「勝とうと努力することより、数倍の覚悟が必要だと思えます。なにしろ勝つために一所懸命プレーしていると、カッとするのが頻繁にあるはず。熱中すればそんなことは、むしろ当たり前です。この「当たり前前」のことをしないためには、それなりの覚悟がいるはず。だから、逆に、⑦それができる人は尊敬に値します。スポーツマンが尊敬されるのは、そういう理由があるからです。これは、放っておいたらできません。サッカーで相手選手のユニフォームを掴んだほうがディフェンスはしやすいでしょう。でも、やってはいけません。ラグビーなら「ボールを前には投げない覚悟」がどうしても必要なのです。

スポーツをする以上、「ルール」に書いてある具体的な条項を守ることは当然ですが、それだけではスポーツマンと名乗ることはできません。

「ルール」が何故必要かという原則を理解して、その原則を守る覚悟を持たないならば、本当はスポーツをしてはいけません。してもいいけど、それはあまり意味がありませんね。ルールは楽しむためにあるのですから、ルールを守って楽しくないならスポーツをやる意味はありません。スポーツに参加するかどうかは、あくまで当人の自由意思ですが、参加して楽しむとするなら、それなりの覚悟が必要だということです。

こうした原則を守る覚悟のことをスポーツマンシップと呼びます。この視点に立って選手宣誓を言い換えますと、「⑧我々は、スポーツの本質を理解し、そのうえで【1】ために、【2】を持ち、【3】に従って、正々堂々と戦うことを誓います」となります。これが正解。

(広瀬一郎「スポーツマンシップとは？」より)

なお、本文には省略等があります。

問一 —— 線①「ドキッ」という言葉が表す気持ちとして適当なものを、

次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 質問の答えを知ることへの喜び
イ 質問に答えられないことへの焦り
ウ 宣誓自体の持つ本来の意味を知った驚き
エ 宣誓自体が意味を持たなくなることへの恐怖

問二 —— 線②「これ」について、次の各問いに答えなさい。

- (1) 「これ」とは何を指していますか。二十五字以内で説明しなさい。
(2) 筆者は「これ」をどのようなものだと考えていますか。本文中から二十字程度で探し、はじめと終わりの五字を抜き出しなさい。

問三 —— 線③「なぜならスポーツとは『ルール』のことなのでから」

とありますが、このように言えるのは、筆者がスポーツをどのようなものであると考えているからですか。「ルール」という言葉を使わずに、次の文の空欄に合うように四十五字以内で説明しなさい。
スポーツを【四十五字以内】であると考えているから。

問四

一・二・三・四に入る言葉として適当なものを、

次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ あるいは エ つまり

問五 — 線④ 『ルール』が果たす機能」とありますが、スポーツにおいて「ルール」はなぜ必要なのですか。その理由を説明した次の文の空欄に入る言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出さない。

スポーツを【 1 七字】【できるように】【 2 六字】に関する共通の理解を持ち、【 3 二字】を抑制し、【 4 五字】することを難しくするため。

問六 — 線⑤ 「スポーツを理解するうえで最も重要なポイント」とは何ですか。適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア「ルール」には競技の参加者が何がおもしろいのかを検討し、合意したという背景があることを知っておくこと。

イすべての参加者がスポーツの「何がおもしろいのか」を認識し、たうえで、参加しなければならないのだと理解すること。

ウ 具体的な条項が「ルール」に設定されていないければ、全てのスポーツの魅力が半減することを知っていること。

エ「ルール」は文章として書かれないものなので、プレーする前にすべてを理解しておく必要があるということ。

問七 — 線⑥ 「書かれていないけれど、前提になっていること」とありますが、スポーツを楽しむうえで前提となっていることは何ですか。本文中から五十五字以内で探し、はじめと終わりの五字を抜き出さない。

問八 X に入る言葉を考え、十字以内で答えなさい。なお、 X は二か所あります。

問九 — 線⑦ 「それができる人」とは、どのような人のことですか。解答欄に合うように、二十字以内で答えなさい。

【二十字以内】ができる人。

問十 — 線⑧ 「我々はく戦うことを誓います」の空欄には、選手宣誓の文言である「スポーツマンシップに則って」をくわしく説明した内容が入ります。筆者の考えに沿って、【1】～【3】に入る言葉をそれぞれ答えなさい。